バスとぼくとくじら 空(そら)をとぶ

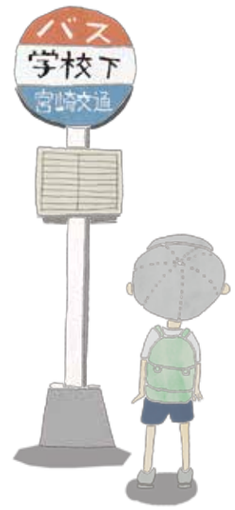
発(はっこう)　行　延岡(のべおかし)市バス利用促進協議会(りようそくしんきようぎかい)

さく・え　おのこぼでざいん

ぼくはその日
はじめてバスに乗った。
とてもあつい
夏休みの一日

前の日の夜ごはんの時
母さんはぼくにいった。
「しばらく、しごとがいそがしくてね、
おばあちゃんちにつれて行けないの。
だから明日、一人で行ってみない？
おばあちゃん、まってるって。」

「ぼく一人で？どうやって行くの？」
「バスで行ってみたら？」
母さんはカードを一まい、さしだしてくれた。
「バスか・・・」
その時、ぼくはなんだか、
自分が少しカッコよくおもえたんだ。



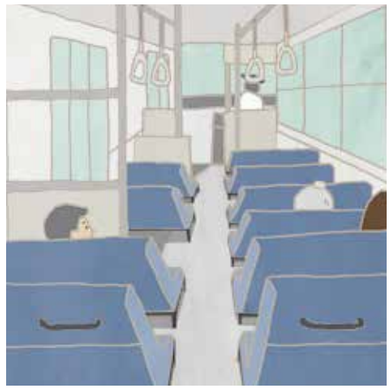
ぼくはしらなかった。
バスには出入り口がふたつ。
運転手さんは
やさしくおしえてくれたよ
「うしろから乗るんだよ。」
「はーい」
さあ、いよいよ
ぼうけんのはじまりだ。

ここにカードをあてるんだよね、っと。

バスの中はとても広い。

どこに座ろうかまよったんだけど・・・

ぼくは一番うしろのイスに座ってみた。
そこはバス全体が見渡せて、
とてもきもちいい席だった。



窓の外には見なれた景色が広がっていたけれど、

いつもとはぜんぜんちがう景色のように
思えたんだ、なぜだろう？

ほかの自動車がずっと下に見えたし、

習字教室に行くハナちゃんとノンちゃんが

ぼくに気づいて下から手をふってくれたりした。

バスはだんだん、

ぼくのまちをはなれていく。

田んぼが広がり、山の向こうには

少しだけ海も見えたんだ。

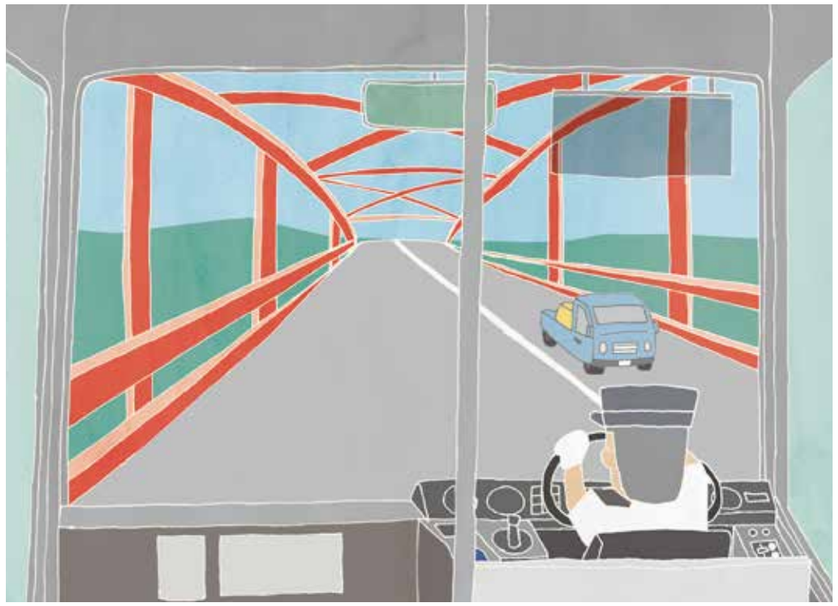
とちゅうで、

まちのキャラクターの

絵がかかれたバスとすれちがった。

楽しいバスもあるんだね。

大きな木にかこまれた細い道も、ぐんぐん走った。
バスは右に左にゆったりゆれて、
とてもきもちがよかったんだ。



バスが大きな橋を渡りきった時、
ふしぎなことが起こった。

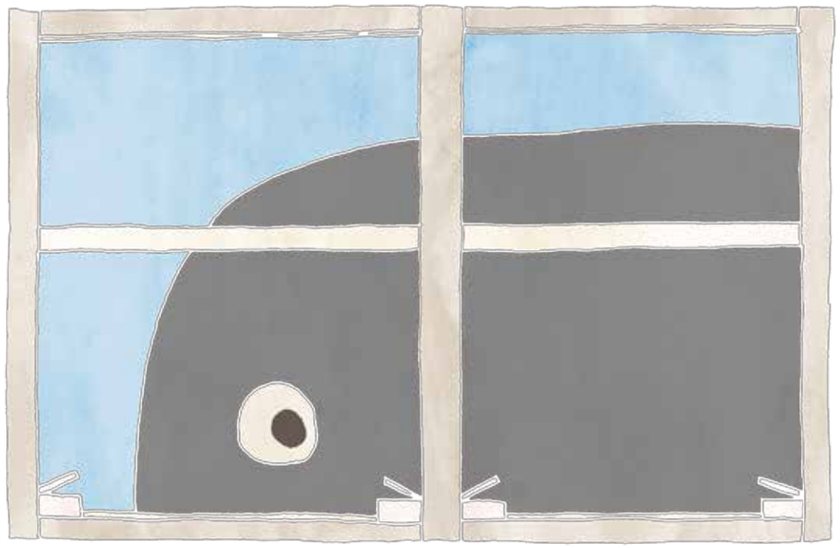
エンジンとタイヤの
ゴーッという音がぜんぜん聞こえなくなったんだ。

ふり向いてうしろの大きな窓から外を見てみると、
今渡った橋がだんだん下の方に離れていく。

こんどは横の窓から下をのぞくと、
道路や海がずーっと下に見えた。

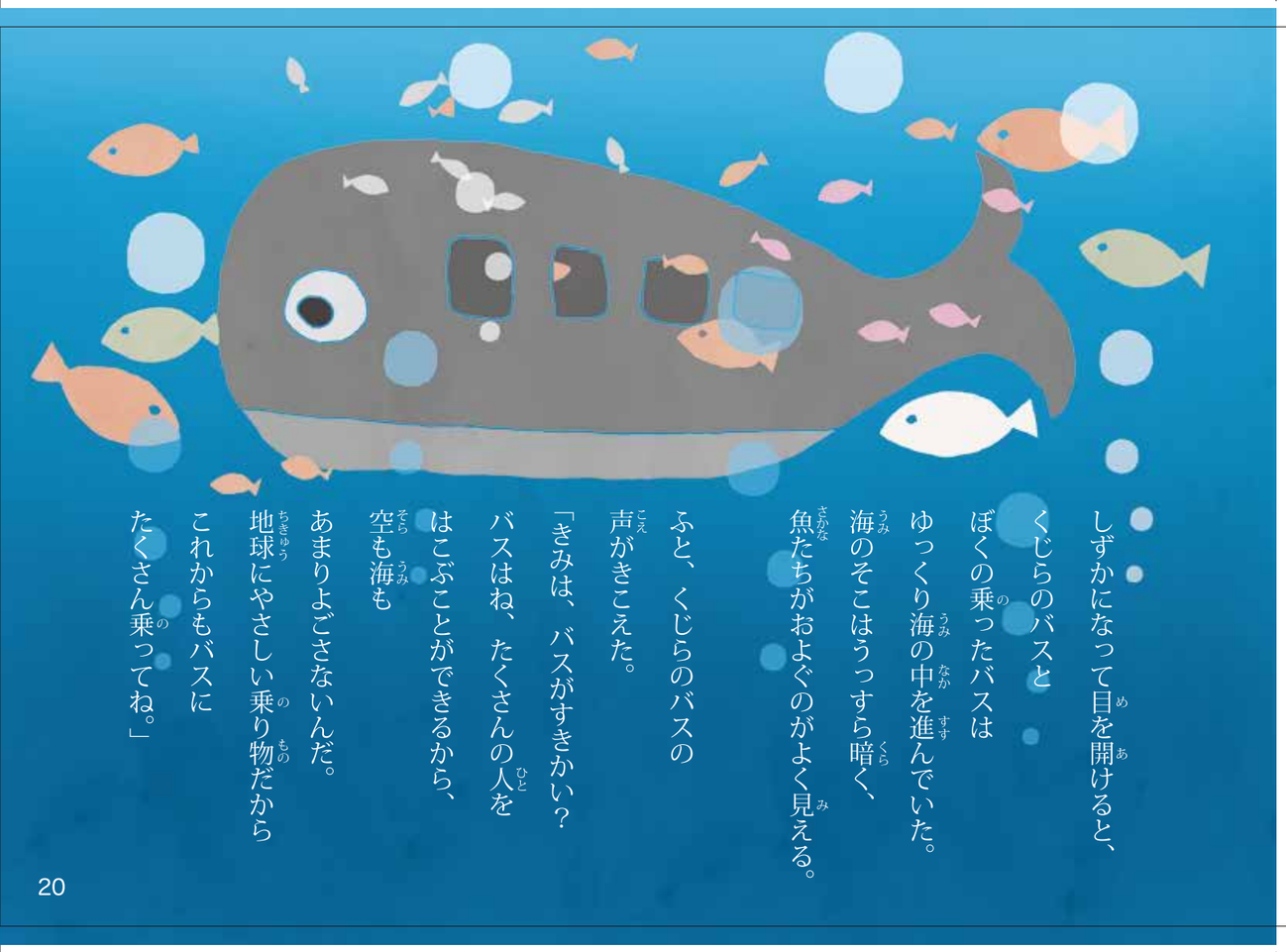
「バスが空をとんでいる！」

そのとき、「ぬっ」
窓を黒いなにかがかくしてしまった。



それは、おおきなくじらのバス。
だれも乗っていないけど、
ちゃんと窓があって、
中に座席も見えたんだ。
ぼくの乗ったバスと、
くじらのバスはしばらく高い空を
ならんでとんだ。

そのうち、だんだん海が近づいてきたと思ったら、
白い波しぶきがザーッと上がり・・・
「ああ、くじらのバスが海に潜っていく！」
ぼくは思わず目を閉じて息を止めた。



しずかになって目を開けると、
くじらのバスと
ぼくの乗ったバスは
ゆっくり海の中を進んでいた。
海のそこはうっすら暗く、
魚たちがおよぐのがよく見える。

ふと、くじらのバスの
声がきこえた。
「きみは、バスがすきかい？
バスはね、たくさんの人を
はこぶことができるから、
空も海も
あまりよごさないんだ。
地球にやさしい乗り物だから
これからもバスに
たくさん乗ってね。」

バスはやがて上をむいて、まぶしく光る水面へむけて
うかび上がりはじめた。
クジラのバスもならんで、いきおい良く。

バスがいよいよ海からとび出した時、
ザッブーン

ぼくは目をさました。
いつのまにか
ねむってしまってたんだ。

バスの中は何も
かわったようすはなくて、
ただ、目の前のボタンが
むらさき色に光っていた。
運転手さんがマイクで言った。
「はい、つぎとまりまーす。」

ボタンを押したのは
入り口の席にすわっていた
おばあちゃん。
ぼくは、にもつを持って
おりるのをてつだってあげた。
いつもは、
はずかしがり屋のぼくだけど
なぜだか急に勇気が出たんだ。
「ありがとう。
おばあちゃんはね、
いつもバスで
買い物や病院に行くのよ。
このまちにバスが走ってくれて
本当にたすかるわ。
それに、あなたのような
優しい子にも会えたしね。
今日はとってもいい気分・・・
じゃ、またね。」
といって、手をふってくれた。

（つぎは港灯台〜。）
そうだ、
ぼくのおばあちゃんの家も
もうすぐだ。
運転席の上の運賃表を見ると
次がぼくが降りるバス停。
よし、ぼくの番だ。
ぼくは少し緊張して
「とまります」のボタンを押す。

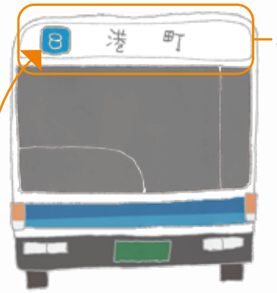
ピンポーン
運転手さんがマイクで言う。
「はい、つぎとまりまーす。」

バスがとまったら席を立ち、
運転手さんの横の機械にカードをかざす。
「ピピッ！」ときもちいい音がした。
「運転手さん、
ぼくをおばあちゃんの家まで
つれてきてくれて
ありがとうございます。」
ぼくが言うと。
運転手さんはこう言った。
「バスに乗ってくれてありがとう。
また、乗ってね。」

これがぼくの
はじめてのバスの旅、
まだ1時間も経ってないけど、
ぼくにとっては、
まるで大冒険のように思えた。

●バスに乗る

乗り口の横の窓には途中のバス停も書かれています。



ここが行き先。

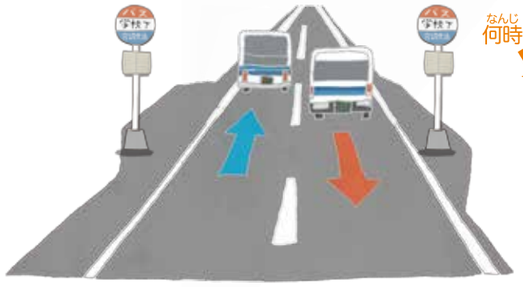
バスの番号

とちゅうで通るバス停

行き先

土・日・祝日の時刻表

バスは道路の左側を走ります。
行きたい方向に向かって左側にある
バス停で待ちましょう。



何時

何分

曜日	平日					土・日・祝				
行先	港町		図書館			港町		図書館		
経由	魚市場		市役所			魚市場		市役所		
番号	8		12			8		12		
6	30		30			6				
7	30		00	15	25 45	7		45		
8	30		00	15	25 45	8	30	00	30	
9	30		00	15	25 45	9		00	30	
10	30		00	20	35	10	30	00	30	
11	30		00	20	35	11		00	30	
12	30		00	20	35	12	30	00	30	

『魚市場を通って港町に行くバスが、このバス停（学校下）から9時30分に出発します。』という意味です。

●バスでどこに行く？

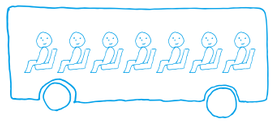
バスは延岡のあんなところ、こんなところを走っています。
君の住んでいるまちから北浦や土々呂、方財の海へも行けるし、北方や大崩などの山にも行ける。『まちなか循環バス』は図書館やヘルストピア延岡などのまちなかをぐるぐる回ってくれているんだ。さあ、お父さんやお母さんに相談して、バスでいろんなところへ行ってみよう。

●バスってどんな乗り物かな？

みんなが自分の車で移動すると

道路がこみあいます。
事故がおきやすくなります。
環境によくありません。

みんながバスで移動すると



道路を走る車がへります。
安全になります。
環境にやさしいです。

バスは『みんなで使う、みんなの乗り物』だから

- ●バス停で待つときは列にならびましょう。
- ●席に座ったら携帯電話や大声で話すのはやめましょう。
- ●バスが動いているときは、立ち上がらないように。
- ●窓から手や顔を出さないでね。
- ●他のお客さんにはやさしくしましょう。
- ●わからない事は運転手さんにききましょう。

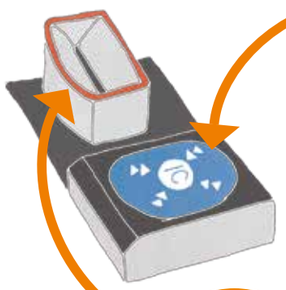
バスは楽しい乗り物です。たくさんの人と交流できたり、知らなかったことを体験できたり、世界がぐんとひろがります。さあ、君もバスの楽しい小さな旅にでかけてみよう！

●バス運賃のしくみ

降りるバス停　乗るバス停

自分が乗った区間の分の運賃を払う。

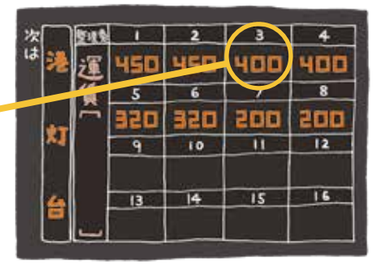
降りるときは



運転席の横にあるカードリーダーにICカードをピッ！とかざすだけ。

ICカードをカードリーダーにかざす。ピッ！となったらOK

おつりがないように、整理券とお金を入れる。
小銭がないときは、バスが停まっている間に運転席の横にある両替機で両替しておきましょう。



乗るときは

現金で払うときは整理券をとる。
（どこから乗ったかのしるしになる）

現金で払う場合は運転席の上にある運賃表で運賃をたしかめる。整理券の番号が『3』なので表の『3』のところを見る。
この場合の大人運賃は400円。
※小学生は大人運賃の半額の200円になるので、運転手さんに「小学生です。」と伝えましょう。